

平成28年 4月27日

お客様各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168
E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

2016年産オランダ産/フランス産百合球根取引準備進捗状況

いい加減…奥歯に物がつまったような遠回しの表現。関係各位に対しての配慮。相手との関係性を傷付けたくない…。

もう本音でいきたいです！！

もうすぐ30年になろうとしているオランダ球根業社との直接輸入/直接取引。

驚いた事に、現在取引としている輸出業社、当社の場合…

1 P.O社	フランスオーエンクス氏/エハートバンザンテン氏	
2 Z.P社	ケシランテフロート氏/フリックネバス氏/ヤコブランゲラン氏	
3 D.J社	ミルロイター氏/アーリアルダス氏	
4 J.W社	ヤンデビット氏/ルネデビット氏	
5 S.T社	ケシステインホーテン氏	
6 V.Z社	ハスターマン氏/ハスグロリー氏	
7 Vdb社	ウィレムバンテグラス氏	
8 Vdz社	ルートバンテルゾーン氏	
9 VWS社	ゲリットザム氏/ジャックスライカマン氏	

*取引開始年古い順

P.O社/Z.P社/D.J社とは、1986～1987年頃から…。

当社は、現存するZ.P社との取引会社としては、最古の会社の一つだそうです（全世界市場で）。

お互い若い会社という事ですね…。

担当してくれている各社の役職員は、取引を開始してからほとんど変わっておりません！ビックリしませんか！？（途中勤めている会社が変わったり、亡くなってしまった方はありますが…）勤めている会社が変わっても、その人と付き合い続けています。

オランダの定年退職年齢67歳までの引き上げと、彼らの現在の年齢構成・オランダの会社の職員配置方針を考えると、この中心世代が現役を全うするのに残された時間は思いのほか長く、10～15年くらいは「このムバ」で日本の百合市場を守っていく事になるのだと思います。

そして多くの会社の後継者は…、まだ半分くらいが世襲で引き継がれていくみたい！！

隔離検疫免除された90年代初頭から半ばまでは、25～60社くらいの輸出業社が、日本の百合市場に参入しておりました。当社が過去に百合の球根を購入した事のある会社は、全部で14社（但しその内2社との取引は、付き合いのある担当職員が勤めている会社を変えた為）。

現在取引のある9社は、全て約5,000,000球以上の百合球根を日本に輸出しているだけではなく、世界市場においてそれぞれの方法で活躍している会社だけとなりました。

彼らは全て百合球根生産会社から、直接球根を仕入れている会社でもあります。（一部業者間取引もある様ですが…。）

取引継続の確立は、9 / 12 (12分の9) です。ちなみに、チュリップ球根は、4 / 5 (5分の4) の確立で、アリスは、4 / 4 (4分の4) です。

チュリップの輸出業社・アリスの輸出業社は、過去から現在まで何軒くらい居たのでしょうか？

30年来、切磋琢磨してきた同志みたいなモノですから…、もうそろそろ本音でお客様にも伝えていきたいなあと思い始めました。

最近一部付き合いの深い長いお客様から…「くどき話が多い！悪口が増えた！」と言われていました。

年を取ったせいではなく、「溜め込んでいて」、「我慢しているから」、気を許せる人について本音が出てしまっているのかなあ、と自己分析しています。

ですから、自分が思う「本当の事」を伝えながら、お客様に接していこうと思い始めているのです。

『ワング渡り価格=FOB 価』

日本の切花農家は、2億球以上の外国産球根を使っておりました。今や1億2千万球程度。

ワングの本当の製造原価・適正価格・市場の分析をする為には、もう生き残った切花農家はこちらを意識してほしい。

目先の円貨では、判断が付き兼ねないはず。『日商岩井やJ T』がこの業界に存在した時からそう思っていました。

『輸出業者毎に意識が違います。』

1) Plamv に対しての認識・対応の差・説明責任・事故処理すべて違います。

ダメな会社はダメです。

2) 洗浄処理

頼むから日本の輸入業者は、11~12月のワング輸出業社の作業を良く確認してほしい。見るべきポイントを絞って！Plamv 対策を講じている会社、対応が遅れている会社、対応していない会社、様々です。

3) パッキング処理

もう多くの日本/世界の切花農家は、気づいているはず。なぜ日本の球根会社はそれに対して同一の価格で仕入れようとするのか？努力している会社には払ってやるべき。そうでない所には…。

1ケース当たりの処理代が安いところと高いところでは45~70セントも違う！！蓋すらしない会社もある！！

1ケース当たりの処理時間/人数が、15秒/4人と8秒/2人で、同じ仕事ができますか？

その他に、使用しているピートモスの品質(毛長 etc.) を球根保管の為ではなく、作業速度優先にしているヤツがいるでしょう。

もう、2軒だけ残った洗浄・消毒後、すぐパッキングする会社がダメという他輸出業社のウソを信じる事は止めましょう！だってそのやり方ですと安定していますもの…。

4) マーケット分析能力、価格提案能力

言葉では表現できない差。

『日本の為に仕入れてくれる会社』、『商品を売ろうとする会社』、決して売ろうとする会社が悪いばかりではないのですが…。やる事やれよ！！

いよいよ次のステップです。

栽培方法別、種球履歴別、球根生産地気象条件別など、いくつものカテゴリ/コンディション別に球根導入についてのアドバイスをしてまいりましたが、今度は取扱輸出業社の管理レベル別のカテゴリを新たに新設していこうと考えています。

そうでなければ、輸出業社に対して、お客様に対して、アンフェアだと思い始めました。

特に長期保管する事により品質が劣化しやすい品種、シバリアの様に後3年でパテント/ライセンスが切れるくらい古くなってきた品種は、それをやらなければ(履歴ごとの販売)もう品質の安定化は図れません。

例えば、240EURO で買えるシバリアは、中国には輸出できない Armv が検出されるロットであるケースが高まったり…。別に悪いという意味では無いけれど…。(ちなみに日本では対象となっておらず、しかも見た目の生育/品質にもほとんど影響は与えないとの事。それを問題視する中国は?)

今日現在（4月26日現在）オランダは寒い！

先日は、朝方の気温が2℃まで下がっている！

雨が多い。定植環境が悪い。

15年産養成球の品質は？（5月連休明けから、新潟砂浜地帯生産分の畑を確認してきます。もうしばらくお待ちください。）

埼玉のFLC様を除く日本の球根業社は、16年産百合球根仕入をまだ50～55%くらいしか進めていない様子。（当社はもう少しだけ進めています。）

16年産球根の相場感…。その分析は難しい！！

こういう時こそ品質重視！自分がお客様の為に仕入れた商品が信じられない様で、何を信じればよいのか？

悪いところがあったら、どこが悪いのか。リスクがあるならどんなリスク対策がとれるのか。相談しながらやっていきたいと思います。

次回報告では、品種毎コンディション毎の解説を行います。

よろしくお願ひ致します。

ご不明な点等ございましたら、お問い合わせください。

以上 森山 隆



<http://www.lily-promotion.jp/>

私共はLPJの趣旨に賛同し
協力・応援しています